

## 学力向上フロンティアスクールの取組事例

都道府県番号	38
都道府県名	愛媛県

(  )

### 学校名及び規模

新居浜市立若宮小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	1	1	1	1	1	1		6	9	
児童数	14	10	14	11	6	14		69		

### 実践研究の概要（主題（テーマ）及び設定の趣旨）

#### ・主題（テーマ）

意欲的に考え、自分の思いを生き生きと表現する児童の育成

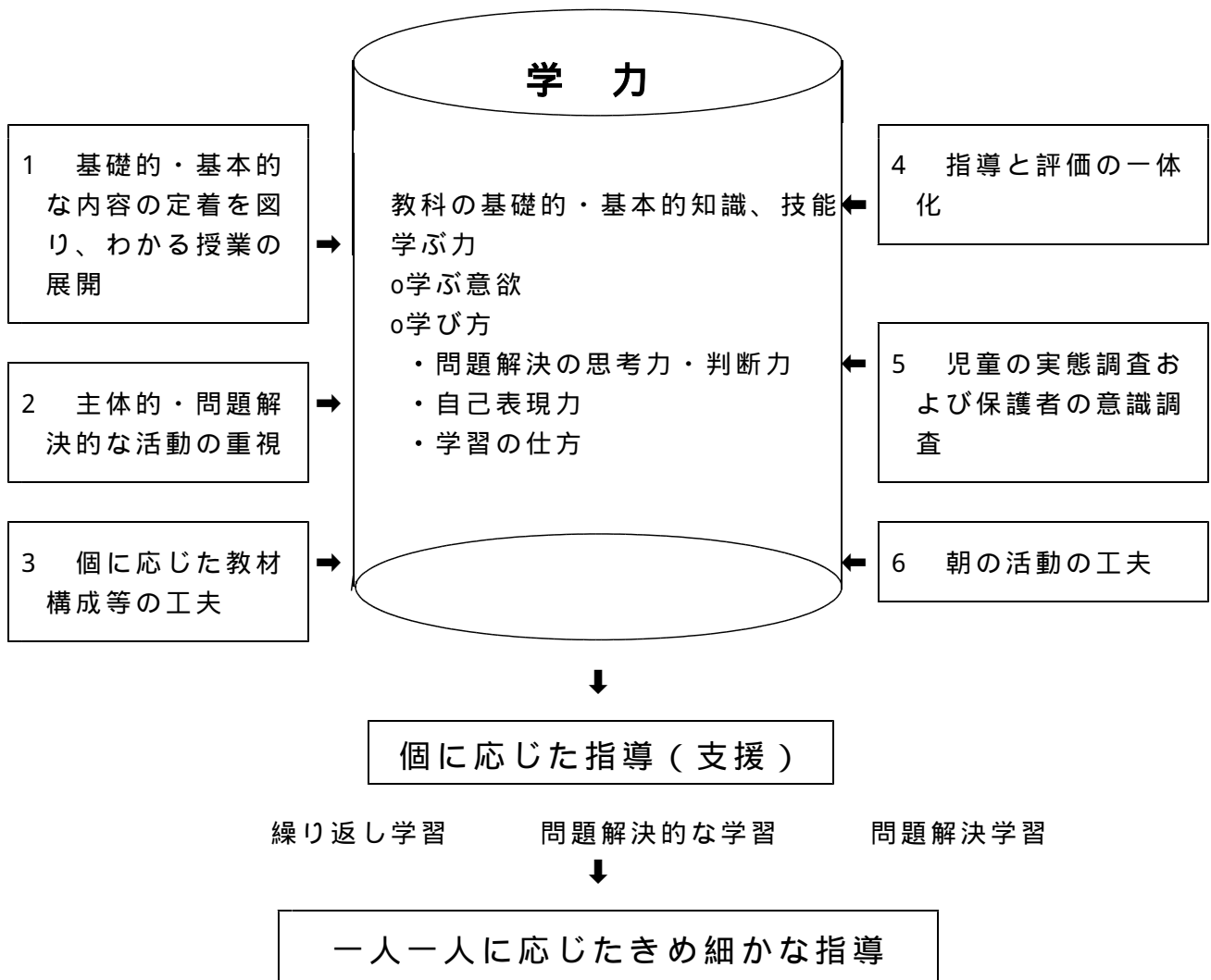
#### ・テーマ設定の趣旨

本校では、学力を「生涯にわたって学び続けていくための基礎・基本となる力」ととらえている。その中の狭い意味での学力として、「教科の基礎的・基本的知識、技能」と学ぶ意欲や問題解決のための思考力や判断力、自己表現力や学習の仕方などの「学ぶ力」と考えている。こうした学力の育成のために、繰り返し学習や児童一人一人の思いや願いを大切にしたい問題解決的な学習を進めたり、指導のねらいを明確にし、児童の実態に応じた学習展開を工夫したりすることが、「一人一人に応じたきめ細かな指導」につながると考えている。

そこで、本校は研究の重点として、基礎・基本の定着 表現力の育成 個に応じた指導の3つを挙げ、これらを研究、実践していくことで、生涯にわたって学び続ける基礎・基本となる力を育成したいと考え、本主題を設定した。

### 学力をつけるための取組

学力とは・・・生涯にわたって学び続けていくための基礎・基本となる力



### 実践研究の内容について

- ( ) 研究体制の工夫
  - ・ 研究テーマや実践方法等について、フロンティア担当者を中心に全教職員で研究に取り組み、新しい教育の流れについて共通理解が図れるよう努めている。
- ( ) 実践研究の内容
  - 1 基礎・基本の定着を図るための取組
    - (1) 基礎的・基本的な内容の定着を図り、わかる授業の展開
      - ア 指導事項の精選と指導計画（単元全体）への位置づけ
 

子ども一人一人に、何を学ばせたいのか、育てたい力は何かなど教師側の指導意図を明確にし、児童の考えやつまずき等を予測しながら単元構成をすることにより、わかる授業につながるであろうと考える。
      - イ 基礎的・基本的内容の確認
 

各教科（主に国語科）等における基礎的・基本的内容を確認し、効果的に学習指導を進める。

第4学年国語科「体を守る仕組み」指導計画の一部（全18時間）

次 (時数)	学 習 活 動	教師の支援 評価 (^^)助言例	育 て た い 力		
			知識・技能	学び方	表現力
1 ③	単元を見通して学習計画を立てる。				
3 ⑨ ふかめる	<p>友達の作品の工夫されている所について話し合う。</p> <p>書いた文章を読み直して、もっとわかりやすい文章に書き直そう。</p> <p>③ (本時 1/③)</p> <p>必要な絵図や表などを整えて、作品を仕上げる。</p>	<p>工夫されている児童の作品を取り上げて、よい所を賞賛する。筆者の工夫を取り入れて、課題にあった文章が書けている。</p> <p>推敲の観点になるように、表現のポイントカードを提示する。</p> <p>机間巡視しながら、言葉がけをしたり、あらかじめ用意していたヒントカードを提示したりして個別に助言する。</p> <p>(^^)ヒントカードをもとに、考えよう。</p>	<p>送り仮名や仮名遣いに注意して書く。</p> <p>言語事項に気をつける。</p> <p>・文章構成 ・段落相互の関係 ・文末表現 ・接続語 ・指示語 ・比喩</p>		レイアウトを工夫する。
4 つたえ あう	<p>みんなの作品を集めて「体のふしぎいろいろ事典」の発表をする。</p> <p>「体のふしぎいろいろ事典」の発表会をしよう。</p> <p>体のふしぎにつ</p>	<p>一人一人が、分かりやすい声で、自信をもって発表できるように励ます。</p> <p>聞き手に、「目のつけどころ」を指示し、目的意識を持って、発表が聞けるようにする。</p> <p>(目のつけどころ)</p>	<p>分かりやすく発表する。</p>	<p>相互評価をする。</p>	<p>分かりやすく伝え合う。</p> <p>意見交換をする。</p>

学習過程 ふれる つかむ ふかめる つたえあう

( ) 成果と課題 (第2回学力向上フロンティア事業西条管内地区協議会・4学年国語科「体を守る仕組み」授業研究)

- 成果
- ・ 本校の取組や学力に対する考え方が、授業に生かされていた。
  - ・ 「ふれる・つかむ・ふかめる・つたえあう」を学習過程と考え、育てたい力を指導案に明記することで、教師のねらいをはっきりさせることができた。
  - ・ 国語の授業でありながらも、他の教科・活動と関連を図ることで、より効果的な学習活動を展開することができた。
  - ・ 子ども達が、意欲をもって学習に取り組めた。
- 課題
- ・ 基礎的・基本的内容や育てたい力について研究を深めると共に、それを日々の実践にどのように生かしていくか、今後考えていきたい。
  - ・ 指導と評価の一体化を図るための評価計画のあり方について研究を深めたい。

( ) 成果の普及方策

- 1 新居浜市内の小・中学校には、公開授業の案内を行い(各校1名以上の参加)、各学校の授業実践の参考とする。
- 2 フロンティアスクール以外の学校代表者(地区協議委員)は、各市町村で行われる研究会や教科会等で、地区協議会での協議内容を報告する。